

学習例 「みんなにやさしいまち、〇〇まち～ みんなが幸せに生きるために ～」 (対象：小学校中学年～高学年)

ねらい

自分たちが住む町が、だれにとっても住みやすい町になるよう、自分たちができることを考え、実行する活動を通して、自分たちが住む町には多くの外国にルーツをもつ人がいて、みんなが幸せに生きる社会を実現するために大切なことに気付くことができる。

学習指導要領との関連（例）

- 小学校3～6年道徳B・C
- ＜実践可能な教科・領域＞
- 特別活動（2）、6年社会

進め方

流れ	内容
導入 (3分)	・ 〇〇町にはどのくらいの外国人がいますか。
展開 (35分)	<p>【ワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none">・ みんなが住む〇〇町には、みんなのようなこども以外にどんな人々が生活していると思いますか。友達と相談しながら、思い浮かんだ人を全部ワークシートに書いていってみましょう。例えば、「お年寄り」や「妊婦さん」などのように書き込んでいってみましょう。 <p>※日本でも外国人の数が増えているグラフや静岡県内のグラフ等、資料を提示し外国にルーツをもつ人に目を向けることができるようにする。</p> <p>【ワーク2】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 外国にルーツをもつ人たちも生活しやすくするために、どのようなものがあったらよいか。友達と相談しながら考えましょう。 <p>※多文化共生課の「令和6（2024）年度多文化共生基礎調査」の結果も資料として活用する。</p> <p>【ワーク3】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 外国にルーツをもつ人たちも幸せに生活できるようにするために、自分たちができることをグループで一つ考えましょう。どんなに小さなことでも大丈夫です。実際にできることを考えましょう。 <p>※「令和6（2024）年度多文化共生基礎調査」の結果も資料として活用する。</p> <p>※ゴミ集積の場に外国語で書かれた看板を提示するなど例を示す。</p>
まとめ (●分)	<ul style="list-style-type: none">・ 今日の学習を通して、みんなが幸せに生活するために大切だと気付いたことをワークシートに書きましょう。・ 教師の価値付けで終わる。

留意点

- ・外国にルーツをもつ人の数は地域差があるため、自分自身も関係していることとして捉えられるよう、日本で、外国人の数が増えているグラフや静岡県内のグラフ等、資料を準備しておく。
- ・自分ごとにするために、自分たちが住む町を題材にする。
- ・自分たちが生活する町には、多種多様な人が生活していることに気付くようにし、その中でも特に外国にルーツをもつ人が多いことに気付く機会とする。その上で、今までになかった気付きを生むようにする。
- ・どのようなものがあったらよいか考えるだけでなく、学んだことを実生活に結びつけることができるようにする。
- ・非現実的なものではなく、本当に自分たちが実行できるものを考えるようにうながす。
- ・外国にルーツをもつ人々が、どうしたらそれぞれ幸せに生活することができるかについて、様々な視点から話し合う活動を通して、自然に人権について触れる機会をもつことができるようにする。
- ・特別支援学級の児童も一緒に参加する場合は、適切な支援をするようにする。

特別支援学校での取組方法

- ・町の風景や住人の写真カードなどを用いて、外国にルーツをもつ人が多くいることを視覚的にとらえられるようにする。
- ・想像することが難しい児童生徒については、実際に駅などに出て外国にルーツをもつ人が困りそうなことを考える。
- ・劇を取り入れながら、具体的に伝えるようにする。【授業者】



ワークシート「〇〇町のやさしさ見つけた！」

- 1 みんなが住む町には、みんなのようなこども以外にどんな人々が生活しているのだろう。思い浮かんだ人々をワークシートに書きましょう。

〇〇町に住む人たち

自分

- 2 外国にルーツをもつ人も幸せに生活するために、みんなができることを書きましょう。



- 3 今日の授業を振り返って、みんなが幸せに生活するために大切だと気付いたことを書きましょう。

